

「ものが水に溶ける一瞬(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

日頃、私はほぼすべての実験道具を、その場で子どもたち自身に準備させている。しかし、多くの参観の方がいらっしゃる研究授業、子どもたちも私も身動きがとれなくことが多いので、今回は前日に完璧にセッティングしておいた。



実験観察室(理科室)の各実験机には「第〇研究所」の札を貼り、LED光源付き顕微鏡も、充電をしておいた。今回はインフルエンザで休んでいる子どもが多く、1~7研(5研は欠番)で、前から3列目までのコンパクトな配置となった。



教卓上の準備も万全にした。各研究所(班)のカゴには、以下のものを入れておいた。()は個数。

- ・ビーカー50mL (2) 100mL (1)
- ・ホールスライドグラス (4)
- ・ティッシュボックス (1) ・雑巾 (1)
- ・ピンセット (4) ・スポイト (4)

- ・薬品入れた小瓶 (3) ※各5g程度
食塩、ミョウバン、塩化コバルト
- ・各机上にLED顕微鏡(2)とiPad(2)

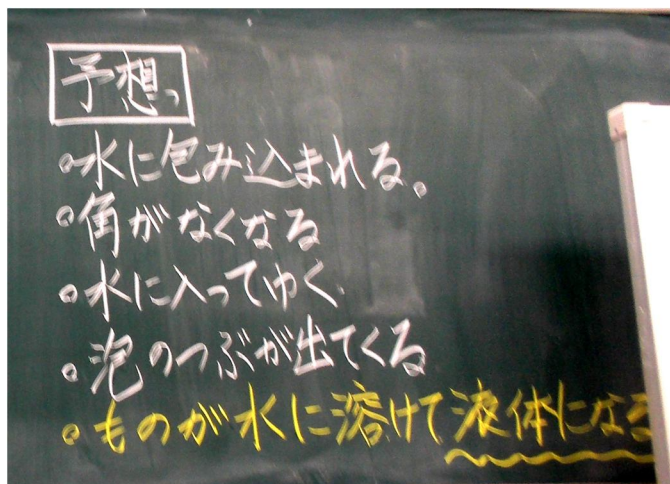
私には、少し親切に準備し過ぎたような気がする。研究授業ということで、ご勘弁いただきたい。

さて、今回の研究授業の流れを振り返ってみたい。1時間目の授業だったので、朝の会から始まった。本時の5年3組の担任は、別の授業で来られなかったので、私が朝の会に出ることになった。3人のスピーチは、とても面白かった。特に、幕張に行ったという男児の話が面白く、参会者の方も大笑いだった。

そのあと、理科系のクイズがあり、やっと授業が始まった。今回の授業は「ものが溶ける一瞬」3時間のうち「2/3」だったので、前時の授業終了時の黒板をそのまま板書しておいた。



「研究課題」の文言は、子どもたちと一緒に考えた。特に最後の「見極める」という部分は、たくさんの意見の中から最終的に選んだものである。



前時の最後で出された「予想」も、あらかじめ書いておいた。予想の文言は、子どもから出た意見を、ほぼそのまま板書してある。最後の黄色の文字は、私が本時の最初に、「ほかに予想はないですか?」と聞いたものだ。「固体が液体になる」という予想が出ていなかったからだ。その期待が子どもに通じたのだろう、見事に一発でその予想が出てきた。たぶん「**エスパー**」という現象だろう。(つづく)